

さいき先生&かじた先生のハートフル相談

「ここが、肝腎です」

じん

【Vol.26】シリーズ：慢性腎臓病(CKD)と心臓病の意外な関係⑤



梶田達也先生



齋木豊徳先生

このコラムは、「福德水会さいきじんクリニック」の院長・齋木豊徳先生、透析センター長・梶田達也先生が、腎臓の病気の知識や情報について解説。今回は梶田先生によるシリーズ「慢性腎臓病(CKD)と心臓病の意外な関係」の5回目です。

糖尿病と慢性腎臓病(CKD)・心臓病の関連

糖尿病は世界中で患者数が増加している疾患です。糖尿病は、自己免疫異常によりすい臓からインスリンが分泌されない1型糖尿病と、過食・肥満や運動不足などの生活習慣が関与して発症する2型糖尿病の2つに分類され、日本人の多くは2型糖尿病です。

2002年度の厚生労働省の調査では、20歳以上で糖尿病と思われる

網膜出血や剥離(はみり)を併発した場合、3・3

2002年度の厚生労働省の調査では、20歳以上で糖尿病と思われる合併症を引き起こすことです。糖尿病が原因で進行する動脈硬化は全身の動脈に起こり、直径の太いものから1mm未満の極めて細い動脈まで多岐にわたります。さまざまな臓器に弊害を及ぼします。

国内の医療機関の調査では、糖尿病患者は健康な人と比べて死亡するリスクが1・6倍高く、糖尿病を合併した場合の死亡リスクは1・5倍、虚血性心疾患を合併した場合、眼底の細い血管に動脈硬化が進行した場合、3・3

人は約1620万人に達し、現在も増加傾向です。糖尿病は、自己免疫異常によりすい臓からインスリンが分泌されない1型糖尿病と、過食・肥満や運動不足などの生活習慣が関与して発症する2型糖尿病の2つに分類され、日本人の多くは2型糖尿病です。

透析導入の原因で最も多い病気になりました。

糖尿病が怖いのは、自覚症状もなく経過する数年から数十年の間に動脈硬化を進行させ、重大な合併症を引き起こすことです。糖尿病が原因で進行する動脈硬化は全身の動脈に起こり、直径の太いものから1mm未満の極めて細い動脈まで多岐にわたります。さまざまな臓器に弊害を及ぼします。

例えば、脳梗塞(こうそく)や脳出血といった脳血管障害、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、下肢の動脈が閉塞し下肢閉塞性動脈硬化症など、切断を余儀なくされる太い血管に動脈硬化が進行した場合の合併症で、致死率が高いか日常の生活の障害が深刻なものばかりです。虚血性心疾患はさらに脳や腎臓に悪影響を及ぼすことが懸念されています。

この記事に関する問い合わせなどは、同クリニック・腎臓病教室事務局の浜岡さんへ。

所在地 〒720-0838 福山市瀬戸町山北450-1

電話 084(949)2777

ホームページ www.sakiki-cl.com/